

里山にあそび里山に生きる



勝を争いました。一打



祈り活躍を応援したいと思います。(征矢里山通信員)

「昨年、昨年と「USキッズゴルフ世界選手権」で優勝した加茂学園4年生の南愛美さん(えみ)さんが、今年この大会は世界50ヶ国から110名の選手が集まった激戦でした。自信はあったものの、3連覇のあったフレッシュヤーも大きい中での挑戦でした。初日にリードを許しましたが、猛迫をみせて最後まで優勝を争いました。一打

一緒に取材に当たってくれた愛美さんのお母さんからは、この1年の愛美さんの成長を、練習への取り組み方が以前より積極的になり、自分から強くなり、勝たいたいという強い意思をもって取り組むようになってきた」との話の後に、愛美さんの将来について「親の思いを押し付けるのではなく、子供がやりたいという意思をもってゴルフを続ける限り支え続け、見守っていきたい」と話してくれました。



加茂学園には愛美さんの他にも世界を目指し練習に励む小さなアスリートたちがいます。健全な成長を

加茂里山通信は22年半で90号となりました。今年で加茂里山通信は90号となりました。22年と半年です。読者の皆様のご支援に感謝申し上げます。今年も大久保駅のヒマワリが昨年に劣らず見事な花を咲かせました。ほとんど雨の降らなかった今年の猛暑でしたので、国本の兼岡さんが毎日のように水かけをして世話した成果だと思えます。



構のみんなで定期的に行い、景観を維持しています。(征矢里山通信員)

とで、流通に回らない貴重米です。天日干しは天候に左右されますが、稲わらに残った養分が米粒に落ちていき、アミノ酸や糖の含量が高まる事でお米本来の甘みや旨みが引き出されると言われます。頂いたお米を炊いてみたところ、つやと香りがありそして口中にほんのりとした甘味が広がっていく本当においしいごはんでした。(征矢里山通信員)



田んぼを会場として整備して提供した、月崎の島野さんのお話だと「稲刈りが終わって、田んぼを会場として整備して提供した、月崎の島野さんのお話だと「稲刈りが終わって、田んぼを会場として整備して提供した、月崎の島野さんのお話だと」

泥にまみれる第3回チバニアンカップ開催月崎で田んぼラグビー。チバニアンカップ2025と銘打った、今年で3回目を迎える「いちほら田んぼラグビー」が、月崎公民館から徒歩2分の田んぼで開催されました。(主催は市原クビフットボール協会を中心とした実行委員会。参加者は約150人。市内からの参加が3割ほどで、習志野や浦安からも参加者が集いました。プロチームの浦安D1 Rocksのスタッフが特別参加するなど、行事として定着してきたように思えます。



田んぼを会場として整備して提供した、月崎の島野さんのお話だと「稲刈りが終わって、田んぼを会場として整備して提供した、月崎の島野さんのお話だと」

世界と戦う加茂学園4年生 南愛美さん

「昨年、昨年と「USキッズゴルフ世界選手権」で優勝した加茂学園4年生の南愛美さん(えみ)さんが、今年この大会は世界50ヶ国から110名の選手が集まった激戦でした。自信はあったものの、3連覇のあったフレッシュヤーも大きい中での挑戦でした。初日にリードを許しましたが、猛迫をみせて最後まで優勝を争いました。一打

加茂里山通信

令和7年秋号
発行 市原商工会議所 加茂里山通信編集部 征矢貫造 編集長

西川であそぶ

養老川の支流の古敷谷川のさらに支流の西川について、これまで何度かこの通信でお伝えしてきました。あちこちに大きな穴の開いた窟穴群は見事な景観です。以前も述べたように平流状になったところ、水深が浅く、長靴があれば歩けます。

里山に暮らす 養老でおだ掛け米をつくる

今、機械を使えば田起こしから田植え、稲刈りまで一人ですみます。機械化が進む前はみんなで田植え、稲刈りしておだ掛けをしていました。人手を要した仕事でした。今ではほとんどが刈り取りも脱穀も乾燥も機械です。そうして、養老の鈴木文夫さんは昔と変わるこなくお掛けの稲の天日干しを続けています。人手は兄弟など近い身内が集まり、2日くらいをかけて行っています。農協などには出荷していないとのこと、流通に回らない貴重米です。天日干しは天候に左右されますが、稲わらに残った養分が米粒に落ちていき、アミノ酸や糖の含量が高まる事でお米本来の甘みや旨みが引き出されると言われます。頂いたお米を炊いてみたところ、つやと香りがありそして口中にほんのりとした甘味が広がっていく本当においしいごはんでした。(征矢里山通信員)

泥にまみれる第3回チバニアンカップ開催月崎で田んぼラグビー

加茂学園は今

市総合体育大会・新人体育大会 各競技に出場



7月上旬から市原市中学校総合体育大会が行われました。壮行会での全校生徒によるエールで送り出された選手たちは、これまでの練習の成果を存分に発揮しました。9年生にとっては最後の大会が、最後まで諦めず全力を尽くす9年生の姿は、大変立派でした。今後は先輩からバトンを受け、7・8年生が、9月下旬から10月の市原市中学校新体育大会に出場します。

市英語発表会

9月19日(金)に市民会館で市英語発表会が行われました。加茂学園からは、4名の生徒が代表として参加しました。夏休みから英語科教員・ALTの指導を受けながら練習を重ねてきた生徒たちは、大勢の人を前に堂々と発表しました。



9月19日(金)に市民会館で市英語発表会が行われました。加茂学園からは、4名の生徒が代表として参加しました。夏休みから英語科教員・ALTの指導を受けながら練習を重ねてきた生徒たちは、大勢の人を前に堂々と発表しました。

空き家で川柳NONO

作品募集開始!

こんにちは、開宅舎の高橋です。地域の皆さんには日頃から大変お世話になっております。おかげさまで事業を始めて4年で、35軒の空き家を開業することができました。受け入れた移住者もいつの間にか30組50名になりましたが、同時にそれ以上の数の空き家が年々増えているのが現実です、4年前は150軒ほどだった空き家も、今は200軒ほどに増えていきます。空き家になってしまった家なんとかすることも大事ですが、そもそも空き家にならないために今からできることはないか、そんなことを最近考えています。増え続ける空き家に少しでも興味関心を持っていたきたい、元氣なうちに家のつづきを考えてもらいたい、そんな思いから「空き家で川柳」という企画を始めます。加茂地区にお住まいの皆さんに、空き家に対

グローバル・コミュニケーション科の活動の様子(英語)も紹介されました。

マザー牧場に行ってきたよ!



9月19日(金)、1・2年生が校外学習に行きました。マザー牧場で乳牛やひつじ、うさぎと触れ合い、乳ばりも体験しました。子豚のレースに参加すると、元気がいっぱいになる子豚を何とかゴールに向かわせようと、みんな一生懸命でした。生徒たちは目をきらきらさせながら、からだ全体で動物たちとの体験を楽しんでいました。(櫻井里山通信員)

「空き家で川柳2025」
募集方法
応募用紙に作品と住所、名前を記入の上、以下の指定ポストに投函ください。
ポスト設置箇所…養老溪谷駅 里見駅 里見広場2F (旧里見小学校、加茂公民館 月出小舎 ヤマドリ珈琲 (旧月出小学校)
※応募用紙はポスト設置箇所配布しています。
・応募期間
2025年10月20日(月)～12月4日(木)
・入賞作品
一等…3万円分の景品(1名)
入選…空き家で川柳オリジナル手拭い(10名)
参加賞…空き家で川柳オリジナルステッカー
・入賞作品発表会
左記会場にて入賞作品の発表会を行います。入賞者にはその場で景品の受け渡しを行います。作品を応募していない方でも見学いただけます。近所さんや友達をお誘い合わせの上、参加ください。
会場…里見広場2階 旧里見小学校
日時…2025年12月14日(日) 13:00～15:00
・同時開催「家のつづき相談会」
空き家の今後のことや相続のことで相談したいことがある方は、気軽に「参加ください。開宅舎スタッフが1対1で相談のります。
会場…里見広場2階 旧里見小学校
日時…2025年12月20日(土) 15:00～17:00

今号で加茂里山通信は90号となりました。22年と半年です。読者の皆様のご支援に感謝申し上げます。今年も大久保駅のヒマワリが昨年に劣らず見事な花を咲かせました。ほとんど雨の降らなかった今年の猛暑でしたので、国本の兼岡さんが毎日のように水かけをして世話した成果だと思えます。

皆様と共に歩む観光

ワカサギ釣りのシーズン到来!

高滝湖観光企業組合

TEL 0436-98-1277

愛車のある幸せな暮らしを応援します!

安全・安心

小茶自動車

市原市石神227
TEL 0436-96-0482
FAX 0436-96-1293

次回は1月20日発行予定です。

情報提供、取材依頼は近頃の通信員へ。メールでも受け付けます。

記事に関する意見、お問い合わせは左記へ。

市原商工会議所
0436(22) 4305 担当 霜崎
Eメール Tsap@tsci.or.jp

夏の宵に踊る

猛暑も盛りの8月23日(土)。夕方6時過ぎといえ、涼しい風は吹かないという環境ではありましたが、恒例の加茂市民祭りが開催されました。

(主催は町会会を中心とした実行委員会)

加茂支所の裏庭の会場には数々の市民(ちよっ)と大げさ)が集まったのではないかなと思えるような多くの参加者がやってきて、市民祭りが開催されました。



踊りの輪に入って一緒に楽しんでいた小出市長も「4重の踊りの輪がでるのは加茂だけ。毎年のことだけど、加茂は凄いなと思うし、驚いた。」などと、感想をおっしゃっていました。

(大曾根1里山通信員)

年配者を敬う

「暑さ寒さも彼岸まで」なんてことを言いますが、少し秋の気配が始めた9月28日(日)に加茂地区敬老会が開催されました。



市原高校の生徒さんにボランティア協力をしていたなかで、スタッフを含めて200名ほどが加茂公民館の体育館に集まりました。主催は加茂地区社会福祉協議会、加茂吟詠・吟舞会、吟舞・こころ舞踏団の創作ダンス・ギョウ・演奏などの演目で会場は盛り上がり、参加された高齢者の皆様は楽しひと時を過されたことと思います。

(大曾根1里山通信員)

みんなで草を刈る

南中原の秋の行事として「花プロジェクト」があり、菜の花の種まきがあちこちで行われます。月崎から大久保に至る小湊線沿いの能田つぼりでも行われます。

そのためには草刈が必要で秋の草刈り大作戦です。里山連合、市役所関係、小湊線関係が主なメンバーですが、今回は横濱から2人、市川から1人の自主参加を得て行われました。50名くらいでいつもより少なめでしたが、開けたところに集中して刈り終えました。この整備を始めてから20年経つとの話がありましたが、みんなの地道な草刈りなどの継続が能田つぼりの景観を維持しています。



(征矢里山通信員)

こつもと紀行番外編 能登半島視察記 後編

和倉温泉郷も壊滅から復興へ

有名なホテルの加賀屋がある和倉温泉郷は七尾市にあります。ほとんどの旅館・ホテルの建物が傾き休業中でした。加賀屋さんと数軒が何とか臨時営業にこぎつけた感じです。それでも数軒の旅館は建て替えるに向けて解体作業・改修作業に入っている感じもあります。温泉街全体の復興への足取りは進んでいるのかもしれません。こうなると公費での補助がどれくらい出せるか、金融機関がどれくらい援助できるか、国も当然ですが県や市町村の地域の総合力が試されるのかもしれませんが。七尾市全体では他の地域と比べて被災

珠洲市の状況

七尾市の海沿いの道を珠洲市に向けて走ります。珠洲は震源地に一番近いところです。実は、市原市は珠洲市の支援担当として職員を派遣していました。市原市の担当部によれば、14人ほどの職員が最長1年ほど派遣され、災害認定事務や上下水道の復旧などに3月末まで従事したそうです。

珠洲市で行政の担当者のお話をお聞きしました。建設系の役職者で、道路の復旧、仮設住宅の建設など、つまり本場の最前線に頑張っている方でした。多くの他市からの応援職員も働いていることが多種多様な作業が見られることで理解できますし、緊張感というのか、職場の熱気というのか、そんな空気がひしひしと伝わってきます。なにしろ珠洲市役所までの道のりが道路の傷み具合、津波の被害であらう海岸線の様子、壊れてつぶれたような民家数々、あちこちの解体作業、走りながら目に入ってくる仮設住宅の様子。そんな景色を見た後の市役所ですから、こちらも緊張感がありました。



珠洲市は奥能登国際芸術祭を開催してきました。市原と同じ北側フラムさんのプロデュースです。前回の開催は2023年のことでした。芸術祭で建てられた建物にも行きました。大きな建物が高台にあつて、海がよく見えます。しかし、現在は建設資材が置かれていました。海が近いですから消波ブロックが置かれていました。

高台から海を見下ろすと集落が見えます。集落の家がべちゃんこに崩れているのが目に飛び込みます。海底が4mほど隆起して、それで津波の被害が軽減されたともいわれているらしいですが、隆起のために支援

物資の船の着岸ができなかったといわれています。そんな海岸線が見えます。普段の海岸線を知らないのが隆起したかどうかは実感できないのですが、岩礁がやたらに白く見える部分はおそらく海の中にあつた部分だろうと想像します。

震災と夏の豪雨で大きな災害を受けた集落にも行きました。2階建ての家の1階部分が完全に土砂に埋まっています。集落の中に山からささる本間に小さな小川なんです。夏の豪雨で土石流として暴れたことが想像できます。集落全体が被災です。人災はなかったのだろうか？



この集落の再建にはどれだけの時間と情熱が必要なのだろうか？一般論として、コンパクトシティなんていうハイカラな言い方で街の集約を言うのが昨今の行政的な流行です。街を集約すれば、道路や下水道などのインフラも効率化されますし、人口減少時代には必要な政策でしょう。でも、こんな被災された集落を見ると、長い年月の間営まれてきた暮らし・文化みたいなものが思い浮かびます。

過疎によって時間をかけて進んでしまった限界集落ではなく、災害による突然の暮らしの激変、そんなところに都市運営の効率化による理屈を突きつけられるのだろうか？なんてことが頭の中をめぐります。集落自体が歴史の中で醸成されてきたような場所に見えるだけに、災害の理不尽な色々々なことを考えてしまひました。

そして輪島市は

珠洲市から日本海側の海岸沿いの道を輪島に向かいます。道路の左側は切り立った崖ですが、震災前にはこの崖の下に道がありました。現在の道は隆起した元の海底です。現在の道路から元の道のロックシェッドが見えたりします。見た目で元の道路がわかるだけに、海岸線からかなり離れた場所道路が作られていることがわかります。がけが崩れて本来の道路を復旧するのはまず無理。海底が隆起したことで道路が作れたとい

市原商工会議所ニュース

里山に息づく人が自らを語る新企画スタート

前田祐司さん

加茂の里山を舞台に、新しいトークイベントが始まりました。その名も「里山むすび わたしを語る」。「市原商大義塾加茂支部」と「ちば高滝観光イノベーション協議会」が共催し、地域で暮らし働く人の想いや歩みを語ってもらう企画です。

記念すべき第1回は、9月24日(水)の夜、高滝神社で開かれました。鳥居の奥に灯る提灯の明かりに包まれながら、会場には地域の方々が集まり、温かな雰囲気のなかで開催されました。



初回のゲストは、加茂地区出身で一度地域を離れ、再び戻ってきた前田祐司さん。前田さんはアウトドアアサナを開業したほか、石神地区の菜の花畑づくりや田んぼクラブなど、ユニークな取り組みで地域を元気にしてきました。トークでは、「地域の中だけでお金を回すのは限界がある。外から人を呼び、外貨を稼ぐことが本当の意味での持続可能性につながる」「自分たちが面白く暮らすために、地域創生を自分ごとにするのが大切」「一度離れた人がまた帰ってきたら、と思う場所をつくりたい」と語りかけ、参加者の心に強く響きました。

会場に足を運んだ参加者からは、「地域の未来を前向きに考えるきっかけになった」「自分の暮らす町にもできることがあると感じた」「今後、移住者を増やすためにも移住者に対して優しい地域にならないと」「などの声が聞かれ、イベント終了後もしばらく談笑の輪が広がっていました。

「里山むすび」は今後も続き、加茂の里山で生きる人々の物語を紹介していく予定です。地域の魅力を再発見できる場として、ますます期待が高まります。

今回のゲストは南中原の空き家問題に向き合い、移住促進に取り組む「開宅舎 高橋洋介」さんです。(霜崎里山通信員)

第2回「里山むすび わたしを語る」

日時 高橋洋介さん

11月19日(水)

17:30開場 18:00開演

会場 高滝神社 社務所2階(石段中段から)

里山の米騒動

『令和の米騒動』

高温障害による米の品質が低下し精米時の歩留まりが減少。外国人観光客の増加に伴い飲食店での需要の増加。この結果市場に出回る米の量が減少し供給不足。春先の米不足と値上がりで、備蓄をかう行列がニュースになるなど、令和の米騒動と騒がれました。加茂地区では新米の時期に1年分の玄米を買い保管してある家がほとんどだと思えます。家族の人数も減りお米を炊く量も減っている我が家は足りなくなることはないかもしれませんが、今年も猛暑日が続き、農作業では大変な苦労があったと思います。農協の価格も上昇傾向にあるようです。美味しい新米を有難くいただきます！



「やたら漬け」お彼岸にはおはぎを作ってお墓参りに行きます。彼岸花が咲いてくると、秋ミョウウガが始めます。しその実と茹干、胡瓜、生姜を刻んで「やたら漬け」の季節です。ミョウウガの周りの草をきれいに刈っています。が、インシシが回り回って紅葉の枝が折られています。きよんは悠々と道を横切り、猿は柿の実を狙っています。最近ではリスが現れます。どうやら採集してきたクルミを狙っているようです。



『クルミの栄養』

クルミは不飽和脂肪酸のオメガ3を含み、悪玉コレステロール値を下げる働きがあります。トリプトファンは自律神経を整え、睡眠の質を向上させます。食物繊維は便秘の予防、ポリフェノールには生活習慣病の予防効果、ミネラルも豊富で免疫力のアップにもつながります。栄養豊富なので食べすぎはいけません。1日7粒までにしましょう。

『くるみゆべし』

材料：白玉粉 100g めるま湯 150g 黒糖(粉末) 70g しろうゆ 大さじ1/2 くるみ 40g きな粉大さじ2 作り方①くるみはレンジで2分加熱して刻んでおく。②耐熱ボールに白玉粉を入れ、ぬるま湯を少しずつ加えてこねる。③たまごがなくなったら残りの湯、黒糖を入れて混ぜる。④レンジで2分加熱、取り出してよく混ぜる。くるみときな粉を入れて、再びレンジで2分加熱し、よく混ぜる。(透明になっていなければレンジ加熱1分ずつ)⑤きな粉(分量外)を敷いた器に入れてのぼす。さめてから切り分ける。(大曾根R里山通信員)



小湊鉄道

小湊鉄道では、来年の4月から学生定期から学生バスポートへ転換を企画中です。これまでの学割付きの定期を、学生限定の年間1万円の乗り放題のバスポートに変えて、子育て支援に役立てて頂くという趣旨になります。例えば高校進学を考えたとき、通学の費用を考えてバスの送迎がある私立高校を選ぶという事が現実になります。これが1万円の乗り放題になることで進学の選択肢が広がり、例えばどこかに出かけることも自由度が広がり、アルバイトなどもやりやすくなるなど、メリットが生まれます。



学生専用バスポートの判断は小湊鐵道が行いますが、全国の鉄道好きの学生にも門が広がります。観光振興にも寄与しそうです。

この学生支援バスポート導入にあたり、一口3千円の寄付も募るそうです。返礼品として1日フリー乗車券(2千円相当)がもらえる予定です。さらにこれからの展開次第ですが、沿線の飲食店の割引券などを付けることなどもつながる可能性があります。そうなれば学生支援だけでなく、地域振興にもつながることになります。

企画はまだ調整中で、細部の詰めも残っていますが、学生バスポート自体は実行決定だそうですから、沿線住民の支援体制も含めて、これらの展開に期待しましょう。

(大曾根1里山通信員)

昭和村文化祭のお知らせ

日時 11月3日(月) 9:15~14:15
会場 市原市万田野 7326 昭和村
内容 オカリナ フラダンス
来園 加茂地区内保育園
加茂学園児童・生徒の作品展示
模擬店 喫茶
フリーマーケット
バザー・キッチンカー等

人と環境が一体となって大切な未来へ
自然環境と人間との調和を目指して

杉田建材株式会社

本社 市原市万田野 26 TEL 0436(96)1311
市原支店 市原市惣社1-1-22 TEL 0436(24)0511
南総支店 市原市牛久450-1 TEL 0436(50)0111
URL http://www.sugita-group.com/

安心・解体工事のクドウ商店 相談・見積り無料！



空き家・倉庫・ブロック塀
樹木伐採・残置物の撤去
お気軽にお電話ください！
TEL 0436-98-3903
市原市五井中央1-8-4 (株) 清心興業 千葉県知事(登) 1967号

The Power of Dreams

— ホンダの夢 市原へ —

Honda Cars 市原

■ 五井中央店

■ 馬立店

☎ 0436-24-1111(代)

☎ 0436-95-5050(代)

HP: <https://www.hondacars-ichihara.co.jp/>

いうのが何とも皮肉なのか。しかし時間が経たなかつたことは地域の復旧には幸いしたと思えます。不幸中の幸いですが・・・

養老渓谷も、県道が半年通れなくなつて沿線住民は大変な不便を感じました。能登の報道を見るにつけ、あの道路の状況でどうなるだろうと、実は心配していました。道路の再開は災害復旧から復興への重要なインフラとなります。道路があつての生活再建です。観光で行かれた方も多いでしょうが、輪島のシンボルといえる千枚田も見えてきました。今は建設重機が数台置かれていて、復旧への足取りが見えますが、どれほど復旧するのだろうかと感じます。

輪島市でお話を聞かせて頂いたり、仮設住宅を見せ頂いたりして大変お世話になつた輪島青年会議所の理事長の言葉を思い出します。

「能登の被災を忘れないでほしい」

(過去も、今頑張っていることも、復旧・復興への歩みも・・・)

そんな言葉をかみしめたいと、改めて思いました。(大曾根1里山通信員)